

## 資 料

# A町内会の高齢者の老人力（知恵・経験・技）に関する実態調査 —— 県民運動実践活動より ——

Survey by “A” Neighbourhood Association on Geriatric Health  
and the Advantages of Being Elderly (Wisdom; Experience; Skill)  
—— Prefectural Citizen Movement Practice Activity ——

森田智子<sup>1)2)</sup>, 江川隆子<sup>1)2)</sup>, 笠岡和子<sup>1)</sup>, 神谷千鶴<sup>1)</sup>,  
西村めぐみ<sup>1)</sup>, 原田美穂子<sup>1)</sup>, 服部直子<sup>1)</sup>, 東美鈴<sup>2)</sup>,  
出原弥和<sup>2)</sup>

1) 関西看護医療大学 看護診断研究センター

2) 県民運動実践活動企画検討委員会

Tomoko Morita<sup>1)2)</sup>, Takako Egawa<sup>1)2)</sup>, Kazuko Kasaoka<sup>1)</sup>, Chizuru Kamiya<sup>1)</sup>,  
Megumi Nishimura<sup>1)</sup>, Mihoko Harada<sup>1)</sup>, Naoko Hattori<sup>1)</sup>, Misuzu Azuma<sup>2)</sup>,  
Miwa Izuhara<sup>2)</sup>

1) Kansai University of Nursing and Health Sciences Nursing Diagnosis Research Center

2) A Citizen of the Prefecture Movement Practice Activity Plan Examination Committee

**要旨：**【目的】2010年健康ひょうご21活動（県民運動実践活動）の助成を受け，世代間交流のプログラム創設の基礎資料を得るために，老人力の発掘調査を行い現在の健康状態や地域活動参加状況などの実態を明らかにすることを目的とした。【方法】A町内会の同意が得られた65歳以上の高齢者327人に自記式質問調査法を行った。【結果】有効回答者133人のうち女性60.9%，平均年齢76.1歳±7.8歳。伝承遊びのほとんどの項目は6割以上行っており，郷土料理は「いかなごの釘煮」（68.4%），お菓子類は餅類（75.2%），保存食は「梅干し」（88.7%），薬草は「どくだみ」（42.9%）が多かった。生活満足度，主観的健康感は70%以上が肯定回答であり，老研式活動能力は全項目7割以上が「はい」と回答した。老人力を若い世代へ継承していきたい人は43.4%であり，地域活動へ参加している人は43.0%，ボランティア活動をしてみたい人は12.3%だった。【考察】：対象者は概ね健康状態が良く，健康に気をつけている人が多かったが，若い世代への継承，地域活動への参加意欲は少ない傾向にあり地域活動への参加も4割弱だった。今後は高齢者個々のニーズを把握した世代間交流プログラムを検討していくことが課題である。

**キーワード：**地域在宅高齢者，高齢者の知恵・経験・技，世代間交流，社会参加

**Keywords：**Elderly Person Living at Home, Elderly Person's Wisdom;  
Experience; Skill, Intergenerational Relations, Social Participation

## I. 諸言

我が国は、少子高齢化にともない、市町村における人口の減少や高齢化は大きな社会問題になっている。特に、老年人口が増えている地域では、独居高齢者や老々介護を必要とする家族が増加し、地域の社会的課題として深刻さを増している。各市町村では、こうした現象を緩和するための様々な対策が考えられ実施している。P市も同様に32.4%と県内5位(兵庫県, 2011)と高齢化が進み、生きがい健康づくり対策や高齢者の歩行能力の向上や閉じこもり予防に効果のある「いきいき百歳体操」(重りを使った軽い体操)の普及に取り組む、介護予防事業として地域展開を推進している。こうした取り組みに加えて、我が国の「高齢社会対策大綱」では、高齢者の社会参加活動促進のために、世代間の連帯強化の必要性について言及されている(内閣府, 2011b)。また、高齢者と若者との交流・支え合いは、若者が地域のあり方を考えるきっかけづくりになるものであり、高齢者と若い世代との連帯を深め、希薄化している地域の絆をすべての世代で再生する観点からも推進されている(内閣府, 2011a)。このように、世代間交流が地域における高齢者の出番や活躍の場の拡大を図り、地域の活性化につながるという。

こうした地域の実情を踏まえ、関西看護医療大学看護診断研究センターでは、町内会、大学、P市で組織された老人力プロジェクト(企画検討委員会)を設置し、異世代が相互に協力し合い、世代の持つ力の発掘と活用のための「多世代間交流による健康づくり活動」について検討を進めた。これらは、県民一人ひとりが自ら生活を見つめ直し、生活習慣を改善するとともに、健康増進や疾病の予防をめざし、個人の努力とあわせ社会全体で健康づくりを支援することを目的としている「健康ひょうご21県民運動(実践活動)」の助成を受けて行った。第1に、高齢者の持つ知恵・経験・技(以下老人力とする)の実態を明らかにすること、第2に世代間交流事業を行うことである。高齢者が老人力を活かして地域活動に積極的に参加できる場があることは、高齢者の健康づくり、自立、存在感を持って生活できることである。また、若い世代は、高齢者世代から豊富な知恵・経

験・技を学ぶことができ、積極的な社会参加につながる。このように、各世代の持つ力をどのように活かし、交流していくかが重要な鍵となり、仲間の輪が広がり、A町内会を含めたP市の健康なまちづくりに寄与することが可能となる。さらに、文化(食生活・工芸など)の継承・発展することを目指すことにつながる。

本研究は、世代間交流のプログラム創設の基礎資料を得るために、老人力の実態と現在の健康状態や地域活動参加状況などの実態を明らかにすることを目的とした。

## II. 研究方法

研究対象者は、A町内会の65歳以上の327人のうち、研究協力に同意し自記式質問紙に回答可能な人である。本研究の対象地域は、人口約4万6千人のP市内で大学が属するA町内会である。当地域は、商業地、住宅地からなり、人口1,698人、老年人口割合が19.2%である

調査項目は、近隣住民4人と老人クラブメンバー25人に依頼し、伝承遊び、郷土料理、生活の知恵などについて聞き取り調査を行い、得られた内容から構成し、質問紙を作成した。調査項目は、(1)基本属性(性別、年齢)、(2)老人力に関する6項目(伝承遊び、郷土料理、お菓子類、保存食、薬草、生活の知恵)、(3)健康と生活に関する6項目(生活満足度、主観的健康感、健康のために気をつけていること、外出頻度、会話の頻度、受診状況)、(4)老研式活動能力指標(古谷野,1987)を参照し交通手段の利用を除く12項目を設定、(5)若い世代への伝承に関する4項目(健康づくりへの役立ち、若い世代への伝承、経験・知恵を活かすこと、特技を生かしてバザー展示へ出品したいものの有無)、(6)地域活動の状況に関する3項目(お祭りや行事参加状況、ボランティア、興味ある活動)の、合計33項目から構成され、回答理由や内容を記載する自由回答欄を設定した。

調査方法は、町内会幹事が受け持ち地区の65歳以上の高齢者をリストアップし、P市の広報紙を配布時に調査票の配布を行い、研究参加に同意し記入された自記式質問用紙を幹事が回収し、町内会長からまとめて研究者へ返送してもらった。

収集したデータは、質問項目ごとにSPSS for

Windows (Ver.15.0J) を用いて単純集計分析を行った。さらに質問項目のうち各項目の自由回答欄に記述された内容は要約して意味内容ごとにとめた。

倫理的配慮は、対象となったA町内会の会長の承諾を得るとともに、町内会総会で調査協力の承諾を得た。対象者には、研究の趣旨と目的、回答は自由意志であり協力の有無によって不利益を被らないこと、個人のプライバシーは厳守することを調査協力依頼文と配布時に町内会幹事により口頭で説明し、回収をもって承諾とみなした。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 対象者の概要

調査対象者327人のうち、研究協力に同意し自記式質問紙に回答したのは、151人(46.2%)だった。そのうち、分析に必要な回答の得られた133人(有効回答率40.7%)を本研究の分析対象者とした。男性52人(39.1%)、女性81人(60.9%)であり、平均年齢は76.1歳±7.8歳だった。年齢別にみると60歳代30人(22.6%)、70歳代54人(40.6%)、80歳代45人(33.8%)、90歳以上4人(3.0%)だった。

#### 2. 老人力の実態

伝承遊びは、「カルタ」「縄跳び」「糸取り」「おはじき」を6割以上が行っていた(表1)。郷土料理は、「いかなごの釘煮」が68.4%と最も多く、次いで「海藻料理」(45.1%)、「ちよぼ汁」(36.8%)の順だった(表2)。お菓子類は、「餅類」が75.2%と最も多く、種類は「いびつ餅」「かしわ餅」が多かった(表2)。保存食は、1位が「梅干し」(88.7%)、次いで「漬物」(73.7%)、「佃煮」(57.9%)、「みそ」(57.1%)の順だった。漬物の種類は、大根、なす、きゅうりなど身近に手に入る野菜で漬けていた(表3)。薬草は、1位が「どくだみ」(42.9%)、次いで「げんのしょうこう」(32.3%)、「毒消しまめ」(18.8%)だった。その他の薬草は「よもぎ」「雪の下」「びわの葉」などだった(表3)。生活の知恵は「海水浴で豆を入れた袋を腰につるす」が66.9%と最も多く、その他には「梅肉を煮詰めて下痢止め」「傷口に卵の薄皮を貼って治す」などだった(表3)。

表1 伝承遊び

n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)	
伝承遊び <sup>注1)</sup>	カルタ	88	(66.2)	
	縄跳び	86	(64.7)	
	糸取り	81	(60.9)	
	おはじき	80	(60.2)	
	まりつき	70	(52.6)	
	折り紙	68	(51.1)	
	おじゃみ	67	(50.4)	
	竹とんぼ	65	(48.9)	
	ゴムとび	64	(48.1)	
	竹馬	58	(43.6)	
	紙風船	55	(41.4)	
	パッチン(めんこ)	49	(36.8)	
	〇〇でっぽう <sup>注2)</sup>	49	(36.8)	
		・かしわの実(18件)		
		・ゴム(11件)		
		・紙(10件)		
		・水(8件)		
	・すぎの実(4件)			
	かごめかごめ	44	(33.1)	
	ハンカチ落とし	42	(31.6)	
	花の首飾り	41	(30.8)	
	ビーズ・数珠玉つなぎ	41	(30.8)	
	リリアン	39	(29.3)	
	百人一首	33	(24.8)	
	その他 <sup>注3)</sup>	15	(11.3)	
	・かくれんぼ(6件)			
	・鬼ごっこ(3件)			
	・けん玉、シャボン玉、ままごと、まりつき、羽根つき 缶けり、フラフープ、馬乗り(各1件)			

注1) 重複回答あり

注2) 「〇〇でっぽう」の種類は自由記載

注3) 「その他」は自由記載

#### 3. 健康と生活

生活満足度は、「とても満足」「まあまあ満足」と回答した人を合わせると86.2%だった。満足している理由は、「自分のことが自分でできる」「家族が皆仲良く楽しく生活している」「健康であり生きる喜びがある」などだった。生活に「あまり満足でない」「まったく満足でない」と回答した人を合わせると13.8%だった。満足していない理由は、「近所の人々と話す機会がない」「健康面で不安がある」「介護する人がいる」などだった(表4)。主観的健康感は、「とても健康」「まあまあ健康」と回答した人を合わせると77.7%だった。健康である理由は、「薬を飲まないで過ごしている」「医者にかかりながらも、足・腰が動いていて健康である」「勤めも農業もできている」などだった。「あまり健康でない」「まったく健康でない」と回答した人を合わせると22.2%だった。健康でない理由は、「一人でくよくよしている」「膝の調子が悪い」「血圧が高い」「耳鳴りがある」などだった(表4)。

表2 郷土料理・お菓子類 n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)
郷土料理 <sup>注1)</sup>	いかなごの釘煮	91	(68.4)
	海藻料理	60	(45.1)
	ちよぼ汁	49	(36.8)
	魚を使った料理	44	(33.1)
	野菜を使った料理	41	(30.8)
	果物や実を使った料理	23	(17.3)
	その他の佃煮 <sup>注2)</sup>	26	(19.5)
	・ふき(8件)		
	・わかめの茎(6件)		
	・わかめ(2件)		
	・のり(2件)		
	・ふな、たにし、えび、シソの葉(各1件)		
	その他 <sup>注3)</sup>	10	(7.5)
	・すいとん		
・むし餅(ちまき)			
・梅ジュース			
・イチゴジュース			
・かんでんジュース他			
お菓子類 <sup>注1)</sup>	餅類 <sup>注4)</sup>	100	(75.2)
	・いびつ餅(25件)		
	・かしわ餅(20件)		
	・わらびもち(8件)		
	・よもぎ餅(4件)		
	・草餅(2件)		
	・かき餅(2件)		
	蒸しパン	75	(56.4)
	団子 <sup>注4)</sup>	42	(31.6)
	・みたらし団子(3件)		
	・月見団子(2件)		
	・彼岸団子(2件)		
	・草団子		
	・団子汁		
カルメラ	28	(21.1)	
こば焼き	21	(15.8)	
あめ <sup>注4)</sup>	20	(15.0)	
・水あめ(10件)			
・いもあめ(4件)			
・黒あめ(2件)			
その他 <sup>注3)</sup>	21	(15.8)	
・ドーナツ(5件)			
・あられ・おかき(4件)			
・どらやき(2件)			
・きんとん、せんべい、岩おこし(各1件)			

注1) 重複回答あり

注2) 「その他の佃煮」の種類は自由記載

注3) 「その他」は自由記載

注4) 「餅」「団子」「あめ」の種類は自由記載

表3 保存食・薬草・生活の知恵 n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)
保存食 <sup>注1)</sup>	梅干し	118	(88.7)
	漬物 <sup>注2)</sup>	98	(73.7)
	・大根(18件)		
	・なす(10件)		
	・きゅうり(9件)		
	・白菜・たくあん(7件)		
	・かぶ(6件)		
	・奈良漬(4件)		
	・ぬか漬け、浅漬け(3件)		
	・みそ漬け、千枚漬け(2件)		
	佃煮 <sup>注2)</sup>	77	(57.9)
	・ふき(17件)		
	・いかなご(14件)		
	・のり(13件)		
・つくし(9件)			
・山椒(2件)			
・わかめの茎(3件)			
・貝、こんぶ、しょうが他(各1件)			
みそ	76	(57.1)	
お酒	45	(33.8)	
・梅酒(20件)			
・甘酒(8件)			
・どぶろく(2件)			
瓶詰 <sup>注2)</sup>	30	(22.6)	
・たけのこ(8件)			
・らっきょ(6件)			
・ジャム(4件)			
・のり(1件)			
その他 <sup>注3)</sup>	6	(4.5)	
・納豆、切り干し大根、サツマイモのじく 塩昆布他			
薬草 <sup>注1)</sup>	どくだみ	57	(42.9)
	げんのしょうこう	43	(32.3)
	毒消しまめ	25	(18.8)
	ひとつばい	3	(2.3)
	その他 <sup>注3)</sup>	13	(9.8)
	・よもぎ(4件)		
・雪の下(3件)			
・びわの葉、くこの実(2件)			
・アロエ、ウコン、柿の葉、じゅうやく はこべ(各1件)			
生活の知恵 <sup>注1)</sup>	海水浴で豆を入れた袋を腰につるす	89	(66.9)
	風邪予防に海老の殻と梅肉を煮て食べる	9	(6.8)
	竹製で草取りを作る	8	(6.0)
	その他 <sup>注3)</sup>	12	(9.0)
・梅肉を煮詰めて下痢止め(3件)			
・きんかんを煮詰めて咳止め			
・傷口に卵の薄皮を貼って治す			
・彼岸花の根を陰干しにして風呂に入れて神経痛に効く			

注1) 重複回答あり

注2) 「漬物」「佃煮」「瓶詰」の種類は自由記載

注3) 「その他」は自由記載

表4 生活満足度と主観的健康感 n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)
生活満足度*	とても満足	14	(11.4)
	まあまあ満足	92	(74.8)
	理由 <sup>注1)</sup>		
	・自分のことが自分でできる (3件)		
	・家族が皆仲良く楽しく生活している (3件)		
	・健康であり生きる喜びがある		
	・健康であり今も勤めている		
	・健康で趣味を楽しんでいる		
	・年相応に健康でいられる		
	・時々外出・旅行ができる		
	・ストレスがたまれば旅行やカラオケに行く		
	・食べるものがなんでもある		
	・昔のことを思えば豊かである		
	・大きな病気もせず現在にいたっている		
	・毎日散歩ができる		
	・遺族年金で生活していける		
	・良いお友達がある		
あまり満足でない		16	(13.0)
まったく満足でない		1	(0.8)
	理由 <sup>注2)</sup>		
	・近所の人々と話す機会が少ない		
	・健康面での不安がある		
	・介護する人がいる		
	・くよくよしているから		
	・足が痛いため		
	・生きることに一生懸命		
	・昔のように元気がない		
	・通院しているから		
	・読解力の衰え、長距離歩行が困難		
	・年金生活なので満足できない		
主観的健康感*	とても健康	89	(70.6)
	まあまあ健康	9	(7.1)
	理由 <sup>注3)</sup>		
	・薬を飲まないで過ごしている		
	・医者にかかりながらも、足・腰が動いていて健康である		
	・勤めも農業もできている		
	・医者にかからない		
	・自分のことが自分でできる、日常の生活ができている		
	・少し血圧が高いくらいで他は健康である		
	・人並みに生活できている		
	・体調もよく水泳をしている		
	・特別悪いところなし		
	・毎日よく歩く		
あまり健康でない		1	(0.8)
まったく健康でない		27	(21.4)
	理由 <sup>注4)</sup>		
	・一人でくよくよしている		
	・膝の調子が悪い		
	・血圧が高い、耳鳴りがある		
	・少し物忘れがひどくなった		
	・足・腰痛くて病院ばかり行く		
	・膝が痛いために気分が暗くなる		
	・老々介護でいっぱいである		

注1) 「とても満足」「まあまあ満足」と回答した理由は自由記載

注2) 「あまり満足でない」「満足でない」と回答した理由は自由記載

注3) 「とても健康」「まあまあ健康」と回答した理由は自由記載

注4) 「あまり健康でない」「健康でない」と回答した理由は自由記載

※ 無回答あり

健康のために気をつけていることは、「睡眠を十分にとる」が66.9%と最も多く、次いで「塩分を控える」(57.9%)、「適度な運動をする」(55.6%)、「定期的な健康診断」(54.9%)の順だった。その他に気をつけている内容では「カルシウムを摂る」「生活を楽しむ」「早寝・早起きをする」「朝晩の血圧測定」だった(表5)。外出頻度は、「ほぼ毎日」外出している人が79.1%(表5)、会話の頻度は「ほとんど毎日」が62.6%だった(表5)。受診状況は、定期的に診てもらっている人が7割以上であり、体調が悪くなった時に診てもらっている人は2割程度だった(表5)。

表5 健康に気をつけていること・外出頻度・

会話頻度・受診状況 n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)
健康のために気を付けていること <sup>注1)</sup>	睡眠を十分にとる	89	(66.9)
	塩分を控える	77	(57.9)
	適度な運動をする	74	(55.6)
	定期的な健康診断	73	(54.9)
	規則正しい生活	67	(50.4)
	ストレスをためない	66	(49.6)
	タバコをすわない	64	(48.1)
	バランスのとれた食事をする	61	(45.9)
	過度の飲酒をしない	55	(41.4)
	定期的な体重や体脂肪測定	46	(34.6)
	間食をしない	34	(25.6)
その他 <sup>注2)</sup>		5	(3.8)
	・カルシウムを摂る		
	・生活を楽しむ		
	・早寝・早起きをする		
	・朝晩の血圧の測定をする		
外出頻度※	ほぼ毎日	102	(79.1)
	週に4~5日	11	(8.5)
	週に2~3日	8	(6.2)
	週1回	8	(6.2)
会話の頻度*	ほとんど毎日	82	(62.6)
	2~3日に1回	33	(25.2)
	1週間に1回程度	11	(8.4)
	1か月に1回程度	1	(0.8)
	数が月に1回程度	0	0
	ほとんどない	0	0
受診状況*	定期的に診てもらっている	96	(72.7)
	体調が悪くなったときに診てもらっている	28	(21.2)
	診てもらっていない	8	(6.1)

注1) 重複回答あり

注2) 「その他」は自由記載

※ 無回答あり

老研式活動能力指標では、「はい」と回答した人で、90%以上だった項目は、手段的自立の項目においては「日用品の買い物ができる」「テレビや新聞屋の支払が一人でできる」「自分の食事の用意ができる」、知的能動性の項目においては「新聞を読んでいる」「健康についての記事や番組に興味がある」だった。社会的役割の4項目においては70～80%が「はい」と回答した（表6）。

表6 老研式活動能力指標 n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)
老研式活動能力指標 <sup>注)</sup> *	日用品の買い物ができる	118	(95.2)
	自分の食事の用意ができる	110	(90.2)
	テレビや新聞屋の支払が一人でできる	113	(94.2)
	銀行や郵便局の用事が自分でできる	106	(88.3)
	年金の書類が書ける	100	(86.2)
	新聞を読んでいる（見出しのみで可）	114	(91.9)
	本や雑誌を読んでいる	86	(74.8)
	健康についての記事や番組に興味がある	112	(93.3)
	友達の家を訪ねることがある	89	(74.8)
	家族や友達の相談にのることがある	91	(78.4)
	病人を見舞うことができる	104	(88.1)
	若い人に自分から話しかけることがある	102	(82.9)

注) 交通手段の利用を除く12項目とした  
※ 無回答あり

#### 4. 若い世代への伝承

伝承遊びや郷土料理などの健康づくりへの役立ちは、「役立っている」と回答した人が20.0%であり、内容は「いびつ餅の葉を取りに野山へ行き、足腰が強くなった」「昔の遊びは指先・腕・頭を使って身体全体の発達に役立った」などだった（表7）。若い世代へ伝えていきたいことが「ある」と回答した人は43.3%であり、内容は「いかなごの釘煮」「ちょぼ汁」「梅干し」などだった（表7）。経験・知恵・技を活かす場があれば活かしたいかは「活かそうと思う」と回答した人は31.0%であり、内容は「家庭菜園」「人とのふれあい」などだった。「活かそうと思わない」と回答した人は19.5%であり、理由は「価値観の違い」「考えが現代の人と合わない」などだった（表7）。特技を活かしてバザーや展示などに出品したいものが「ある」と回答した人は14.6%であり、内容は「手芸」「パステル画」「習字」だった（表7）。

表7 若い世代への伝承 n=133

調査項目	カテゴリー	人数	(%)
伝承遊びや郷土料理などの健康づくりへの役立ち*	内容 <sup>注1)</sup>	60	(80.0)
	役立っていない	15	(20.0)
若い世代へ伝えるたいこと*	なし	43	(56.6)
	ある	33	(43.4)
	内容 <sup>注2)</sup>		
	いかなごの釘煮		
	ちょぼ汁		
	梅干し		
	農業のこと		
	土地で作った野菜を食べること		
	屋外で遊ぶこと		
	昆虫類を見て観察力・注意力を育てる		
	食べ物を大切にすること		他
経験・知恵・技を活かす場があれば活かしたいか*	活かそうと思う	27	(31.0)
	内容 <sup>注3)</sup>		
	家庭菜園		
	人とのふれあい		
	日常生活で役立っている		
	農業		
	活かそうと思わない	17	(19.5)
	理由 <sup>注4)</sup>		
	価値観の違い		
	考えが現代の人と合わない		
	若い人は聞かない、なんでも十分にあるから		
	昔話は落ち着いて聞いたりしない		
	本やテレビでいっているから		
	わからない	43	(49.4)
特技を活かしてバザーや展示などに出品したいもの*	ない	82	(85.2)
	ある	14	(14.6)
	内容 <sup>注5)</sup>		
	手芸（7件）		
	パステル画		
	習字		

注1) 「はい」と回答した内容は自由記載  
注2) 「あり」と回答した内容は自由記載  
注3) 「そう思う」と回答した内容は自由記載  
注4) 「どちらかといえばそう思う」と回答した理由は自由記載  
注5) 「あり」と回答した内容は自由記載  
※ 無回答あり

#### 5. 地域活動の状況

地域のお祭りや行事への参加については「参加する」と回答した人は43.0%、内容は「町内会のお祭り」「老人会」などだった。「参加しない」と回答した人は53.7%であり、理由は「年だから」「介護する人

が家にいる」「後継者にバトンタッチ」「足が悪い」「体がついていかない」などだった(表8)。ボランティアについては「している(したことがある)」人は27.4%であり、内容は「清掃」「絵本の読み聞かせ」「草刈り」などだった。ボランティアを「してみたい」が12.3%、「興味がない」が21.7%、「わからない」が36.8%だった(表8)。興味ある地域での活動の自由回答の内容は「空地にお花を植えたい」「日本舞踊を教えたい」「町内会の清掃」などだった(表8)。

表8 地域活動の状況 n=133

調査項目	カテゴリー	人数 (%)
地域のお祭りや行事の参加*	参加する	52 (43.0)
	内容 <sup>注1)</sup>	
	・お祭り (8件)	
	・老人会 (7件)	
	・清掃 (4件)	
	・講演会	
	・ゴルフコンペ 他	
参加しない理由 <sup>注2)</sup>		65 (53.7)
	・年だから (6件)	
	・介護する人が家にいるから (3件)	
	・後継者にバトンタッチ (3件)	
	・足が悪い (2件)	
	・体がついていかない (2件)	
	・あまり健康でない (2件)	
	・関心がうすれた	
	・気疲れする	
	・人の多いところが苦手 他	
地域以外の活動に参加する		4 (3.3)
ボランティアについて*	している(したことがある)	29 (27.4)
	内容 <sup>注3)</sup>	
	・清掃 (6件)	
	・絵本の読み聞かせ (2件)	
	・草刈り (2件)	
	・針仕事	
	・弁当づくり 他	
	してみたい	13 (12.3)
	興味がない	23 (21.7)
	わからない	39 (36.8)
	その他	2 (1.9)
興味ある地域での活動 <sup>注4)</sup>	・空地にお花を植えたい	
	・日本舞踊を教えたい	
	・町内会の清掃	
	・ふれあい交流広場	
	・老人向けの体操	
	・料理(フライパン1つでできる料理) 他	

注1)「参加するほうである」と回答した内容は自由記載

注2)「参加しないほうである」と回答した理由は自由記載

注3)「ボランティアをしている(したことがある)」と回答した内容は自由記載

注4)「興味ある地域での活動」は自由記載

※ 無回答あり

## IV. 考察

### 1. A町内会高齢者の特徴

本研究の対象者であるA町内会の65歳以上の高齢者のうち研究協力が得られた133人の特徴をみると、女性が約60%であり、70~80歳代が半数以上を占めていた。このことから、伝承遊びの項目に関して、女子の遊びである「縄跳び」「おはじき」「糸取り」の項目の割合が高かったことは、女性の割合が多い対象集団であったことが影響した。

郷土料理では、「いかなごの釘煮」や「いぎす」という海藻を使った料理、お菓子類では「餅類」で「いびつ餅」が多かった。本研究の対象地域が海に隣接しており、魚介類や海藻は豊富に活用ができ、自宅の庭や畑などで野菜や果物を栽培している所が多い特徴が反映している。また、「いびつ餅」に使われる「いびつ」の葉は、野山で自然に生育しており、いずれの結果とも、地元で収穫される材料を使った代表的な郷土料理であることから選択した人が多かった。

生活満足度は「とても満足」「まあまあ満足」を合わせると86.2%であり、主観的健康感も「とても健康」「まあまあ健康」を合わせると77.7%と生活満足度が高く、概ね健康状態が良い対象集団だった。

平成21年の高齢者の日常生活やライフスタイルに関する意識調査(内閣府, 2009)では、生活満足度の割合は「とても満足」「まあまあ満足」を合わせると、65歳以上高齢者は8割以上であった。この結果と比較すると、本研究と同様の傾向であった。さらに肯定的な回答の理由を尋ねたところ、「健康であり生きる喜びがあること」「大きな病気もせずに現在にいたっていること」など、健康であることや自己管理できていることが生活への満足度を高めることにつながっていることがわかった。

在宅高齢者を対象とした主観的健康感に関する研究(星, 2008)では、「あまり健康でない」を含めて健康に対し、否定的な回答を持つ者は、先行研究(神宮ら, 2003; 中村ら, 2002)同様に、約2~4割という結果が示されている。本研究では、「あまり健康でない」「まったく健康でない」を合わせた割合が22.2%と上記の先行研究と同様の傾向を示していた。また、「あまり健康でない」「まったく健康でない」と回答した人の理由は「膝の調

子が悪い」「血圧が高い」「耳鳴りがする」など身体の不調が主だった。岡本(2008)は、「主観的健康感が低い者の中には遠方までの外出が困難な者も少なくないと思われるため、各地区において高齢者の身近な場で様々な活動を開催したり、活動の場へのアクセスに配慮したりすることも求められる」と述べている。このことから、今後は、病気や障害の有無あるいは身体の不調を訴えていても、主観的健康感が高まるような効果的な介入の必要性が示唆された。また、平成20年の高齢者の健康に関する意識調査(内閣府, 2008)によると、健康の維持増進のために心がけていることは「休養や睡眠を十分にとる」が60.1%という結果が示されている。本研究では、健康に気をつけていることについて尋ね「睡眠を十分にとる」が60%以上と高い割合を示したことから、本研究結果と類似していた。

## 2. 世代間交流事業の取り組みへの課題

高齢者が経験や知恵などを若い世代に伝授しようとする役割意識の獲得状況を尋ねたが、本研究結果では、伝承遊び、郷土料理などを若い世代へ伝授していくことは、43.4%と低い割合だった。また老人力を活かして積極的に地域活動に参加しようという人は13.8%と割合が最少であり、経験や知識などを伝授または活かそうと思わないと回答した人の理由は「考えが現代の人と合わない」「若い人は聞かない」「なんでも十分にあるから」という否定的なイメージがほとんどであり、高齢者が経験や知識などを伝授していこうという役割意識を持っているとは言い難い結果だった。亀井(2010)は、「高齢者がもつ知恵を次世代に活かすことは、高齢者に有用感をもたらす心身の健康保持への意義がある」と述べている。このことから、若い世代との交流の場を意図的に設定し、高齢者が若い世代に伝授する意識を持てるプログラム内容の検討をする必要性が示唆された。一方で、地域活動状況やボランティア参加の割合は半数を下回っていた。高齢者の社会参加の活性化と参加の度合いは、良好な健康状態の指標であると同時に、健康状態を良好に保つうえでも重要な役割を果たしている(東京都老人総合研究所, 1998)。本研究からは、地域のお祭りや行事の不参加理由のみ

が明らかになったが、ボランティアについての実態や、健康状態などの関連についてはさらなる検討が必要である。

## V. 研究の限界と今後の課題

今回の調査では、A町内会の高齢者で研究協力の得られた者の結果を分析し、その特徴が示された。また、老人力発掘を意図した世代間交流活動を展開する際に、住民と協働で企画し、ニーズに応じた多様なプログラムや方法を検討することに活用できると考える。本調査対象の母集団は、A町内会の65歳高齢者全数であるが、実際の分析対象は、町内会幹事により研究参加に同意し、自記式質問紙への回答が可能である者とした。そのため、本調査は一地域の一時期に限定されており、さらに、A町内会に所属していない65歳以上の高齢者は含まれておらず、回答にバイアスがかかっている可能性があるという限界をもつ。しかし、今後は、今回の調査を踏まえて、データ収集項目の検討や聞き取り調査を導入し、世代間交流事業の展開方法とプログラム内容を検討することが課題である。

## 付記

本研究は2010年健康ひょうご21活動(県民運動実践活動)の助成金により実施し、日韓地域看護学会(2011, 神戸)で発表した。調査にご協力頂いた皆様に深謝いたします。

## 参考文献

- 星亘二, 三徳和子(2008): わが国在宅高齢者の主観的健康感, pp.34-55, クオリティケア, 東京.
- 兵庫県保健年報(2011): 高齢者率市町村別順位, [http://web.pref.hyogo.jp/hw07/hw07\\_000000012.html#h02](http://web.pref.hyogo.jp/hw07/hw07_000000012.html#h02) (情報取得2011/08/24)
- 兵庫県市町村別データ(2011): 市町村別人口, [http://web.pref.hyogo.jp/ac08/ac08\\_1\\_000000285.html](http://web.pref.hyogo.jp/ac08/ac08_1_000000285.html) (情報取得2011/8/24)
- 神宮純江, 江上裕子, 絹川直子, 佐野忍, 武井寛子(2003): 在宅高齢者における生活機能に関連する要因, 日本公衆衛生学雑誌, 50(2), pp.

92-105.

亀井智子, 糸井和佳, 梶井文子, 川上千春, 長谷川真澄, 杉本知子 (2010): 都市部多世代交流型デイプログラム参加者の12か月間の効果に関する縦断的検証—Mixed methodsによる高齢者の心の健康と世代間交流の変化に焦点を当てて—, 老年看護学, 14(1), pp.16-24.

古谷野亘, 柴田博, 中里克治 (1987): 地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発, 日本公衆衛生学雑誌, 34(3), pp.109-114.

内閣府 (2011a): 平成23年高齢社会白書, 高齢社会対策HP, [http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html) (情報取得2011/08/25)

内閣府 (2011b): 高齢社会対策大綱, 高齢社会対策HP, <http://www8.cao.go.jp/kourei/measure/taikou/index-t.html> (情報取得2011/08/25)

内閣府 (2009): 平成21年度高齢者の日常生活やライフスタイルに関する意識調査, 高齢社会対策HP, <http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h21/kenkyu/gaiyo/index.html> (情報取得2011/08/24)

内閣府 (2008): 平成20年度高齢者の健康に関する意識調査, 高齢社会対策HP, <http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h19/kenko/gaiyo/index.html> (情報取得2011/08/24)

中村好一, 金子勇, 河村優子, 坂野達郎, 内藤佳津雄, 前田一男, 黒部睦夫, 平田滋, 矢崎俊樹, 後藤康彰, 橋本修二 (2002): 在宅高齢者の主観的健康感と関連する因子, 日本公衆衛生学雑誌, 49(5), pp.409-416.

岡本秀明 (2008): 高齢者の生きがい感に関連する要因—大阪市A区在住高齢者の調査から—, 和洋女子大学紀要, 48, pp.111-125.

東京都老人総合研究所 (1998): サクセスフル・エイジ—老化を理解するために—, pp.58-60, 株式会社ワールドプランニング, 東京.